曹洞宗 万吉山 見性院

住職 橋本 英樹

進化続ける「みんなのお寺」

令和５年に改修落慶した現代的なデザインの本堂

450年法灯を護持 空襲乗り越え復興 近年伽藍整備に注力

新幹線で東京駅まで約40分というアクセスの良さと、自然豊かな環境が魅力の熊谷市万吉に諸伽藍を構える。天正元（1573）年、建部源右衛門が開基となり、峰山繁雄大和尚によって開創された由緒ある寺院で、約450年にわたって曹洞宗の法灯を護持してきた。春は桜や梅、秋には銀杏など四季折々の樹木や花が色づく境内には、常に参拝者の姿があり、同寺が信徒のやすらぎの場になっていることが伺える。近年は伽藍整備に注力しており、景観が一新された。

太平洋戦争最後の空襲で、県内における最大規模の空襲でもある昭和20（1945）年8月15日の熊谷空襲で、焼夷弾が被弾し、本堂が全焼した。戦後、橋本俊英・前住職が地域の檀信徒とともに伽藍復興に努め、現在の近代的な本堂、客殿を建立した。本堂はさらに、橋本英樹住職による改修事業によって、冷暖房完備、ステンドグラスを備えるなど現代的なデザインとなった。内陣のリフォームも行い、仏具は総欅無垢に統一された。椅子席を最大100席用意することも可能で、快適な空間で葬儀や法要を執り行うことができる。戦前に建てられた山門も令和5年に改修を行い、瓦屋根から鬼瓦の寺院建築様式に模様替えした。

高さ６・５㍍の熊谷観音供養塔

熊谷観音供養塔 地域の新たなシンボルへ

同寺の境内には、高さ6・5㍍の大聖観世音菩薩像「熊谷観音供養塔」がそびえる。夕方頃になると観音菩薩像を西日の光が照らし、周囲は幻想的で厳かな空気に包まれる。俊英前住職の17回忌、橋本住職の叔父の義弘氏の10回忌、実弟・正樹氏の33回忌の記念事業として建立されたもので、熊谷の新たな名所となることが期待される。同寺の分院である専念寺と、飛び地境内の観音堂にも、それぞれ十一面観音菩薩像が安置されている。

「檀家制度」を廃止 「みんなのお寺」へ

橋本英樹住職は平成24年に「檀家制度」を廃止した。宗教、宗派、国籍に関わらず葬儀や法事を行い、墓地を分譲する「みんなのお寺」として見性院を再スタートさせた。翌年には、宗派を超えた僧侶の会「善友会」が発足。見性院の理念に共感する僧侶が全国から集まり、より良い寺院の在り方を模索し続けている。

「お寺離れ」や「墓じまい」など寺院を取り巻く環境が急速に変化する中、橋本住職は、寺院の在り方を根本的に見直した。地域コミュニティーの中心として社会と人々の暮らしに寄与するという寺院の原点に立ち返り、本堂での葬儀、お布施の金額の明示、寺院に直接訪問することが困難な人のための「送骨サービス」など様々な取り組みを始めた。

自然豊かな見性院墓地、閑静な郊外にある専念寺墓地、樹木葬墓地、永代供養墓など、それぞれのニーズに沿った墓地を有する。墓地の購入を希望する信徒が年々増加しており、区画を拡張するなどして対応している。このほどは、8つ目となる樹木葬墓地「紫雲臺」が完成した。「紫雲臺」は、従来にない納骨壇式個別墓で、令和における新しい墓地の在り方を提案する。

レストラン・カフェや結婚式ができる新たな会館の計画もあり、今後の取り組みに注目が集まっている。

様々な形態の葬儀や法要に対応できる冷暖房完備の本堂

本尊の阿弥陀如来像。内陣の仏具等も一新した。

令和５年に改修落慶した山門

〒360-0161 埼玉県熊谷市万吉 797 電話 048(536)1785 ホームページ https://www.kenshouin.com/